

(様式2)

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1517900210		
法人名	有限会社 五輪		
事業所名	グループホーム ゆうゆ 2ユニット		
所在地	新潟県中魚沼郡津南町外丸丁1458		
自己評価作成日	平成21年10月13日	評価結果市町村受理日	平成21年6月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n.kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成21年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは津南駅前に位置しており、中心街とは約1km程の距離にある。目の前には悠々と流れる信濃川、裏手には津南スキー場に続く山がそびえ、自然豊かでのどかな場所である。春は山菜、夏は畑野菜、秋は栗やキノコなど山の恵みも多く、食卓には郷土料理が多く並ぶ。風呂には温泉を引き込んでおり、楽しみの一つとなっている。職員は地元の人が多く、方言が飛び交うアットホームな雰囲気の中で、当たり前前の生活が出来るように支援し、入居者の生き生きとした表情が職員の励みとなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山や川、田畑など豊かな自然に恵まれ、さらに津南駅の目の前という交通の良い立地である。この地域は温泉地であることから、ホームの風呂にも温泉が引かれ、利用者に喜ばれている。地域とのつながりも密であり、町内会に加入して地域の行事に参加したり、ホームの行事に来てもらったり、小学校の児童や保育園児の訪問もある。また、近所の方からよく野菜を頂くなど、日常的に自然な付き合いがなされている。利用者個々の出身地の老人会への参加支援や馴染みの食堂などを一緒に訪ねるなど、これまでの地域とのつながりを断ち切らない支援にも努めている。

職員は明るく穏やかで、また、多くの職員が方言や土地の話題も通じる地元の出身者であり、利用者の安心感につながっている。利用者一人ひとりを大切にされた支援が実践され、利用者が穏やかに楽しく生活している様子が伺えた。家族には毎月、利用者の様子などを手紙や写真で伝えており、家族の信頼も厚い。

職員間のコミュニケーションも密に図られ、「何でもノート」に書かれた職員一人ひとりの意見や気づき、思いが大切にされ、運営に活かされている。運営者も時々ホームを訪れ、職員とのコミュニケーションを図っており、運営者・職員が丸となって、誠意や熱意をもって利用者の生活を支えている。

今後、広報誌の発行など地域との結びつきをさらに深めていくことが検討されている。ますます地域に溶け込み、地域や家族からさらに信頼されるホームとなって行くことが期待できる事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	馴染みのある地域の中で暮らし続けていく事を支えたり、事業所と地域の繋がりを深める為の取り組みは行っているが、理念は開所当時のままであり、文章としては掲げられていない。	利用者のこれまでの人生や、その地域での生活を大切にするという理念を掲げ、ホーム内に掲示して実践している。開所当初に作られた理念であり、今後、地域密着型サービスとしての新しい理念の作成が検討されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には出来るだけ参加するよう努め、挨拶は積極的に交わしている。又、ホームの行事には地域の人達を招待し、隣組にも入れてもらい、回覧板も回してもらっている。	近所の方がよく野菜を届けてくれるなど、日常的な交流がある。町内会にも加入し、地域の行事や近くのお寺の行事にも参加している。また、納涼会などホームの行事に地域の方に参加してもらったり、小学校の児童や保育園児の訪問もある。	以前から地域に向けて広報誌の発行を検討している。ホームについてより理解を深めてもらうためにも、実現を期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献の準備段階として、認知症キャラバンメイト養成講座を受講した。他の施設職員の実習生や中学生の体験学習等受け入れるよう努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1度開催し、ホームの取り組みや利用者の様子を報告し、活発な意見交換が行われている。評価結果について意見や要望を聞き、業務に反映している。	運営推進会議は、利用者や家族、地域の民生委員、区長、町の担当者等が委員となり、2ヶ月に1回行われている。ホームの現況、利用者の状況が報告されるほか、毎回議題を決めて意見交換している。委員から出された意見はホームの運営に活かされている。	今後、会議でより活発に意見や要望等が出されるよう、ホームの課題等を具体的に提示したり、委員との関わりを深める取り組みなど、会議の内容や方法へのさらなる工夫を期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	津南町や十日町市の担当課と連携しており、地域ケア会議や研修会、講習会等に参加し、情報交換をしている。運営推進会議にも出席して頂いている。	質問や利用者支援に関する相談など、町や市の担当者と日常的にやりとりしている。また、町の担当者も出席する地域ケア会議や運営推進会議などでも利用者やホームの状況を伝え、理解を深めてもらえるよう努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしない事を原則としている。介護保険法に則った基本的・具体的な内容について、職員の理解力を高めるためにマニュアルを全職員に配布し、折に触れて話し合いを行っている。	身体拘束は行なわないということを全職員が共通認識とし、身体拘束のないケアが実践されている。日中、玄関は施錠されておらず、利用者の行動特性を把握し、外に出たい様子のある方には、付き添って散歩するなど対応している。	身体拘束について、職員全員の理解がさらに深まるよう、研修会への参加や勉強会の開催など、さらなる取り組みを期待したい。
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営規定に定め防止に努めている。職員は講習会等に参加してその意義を理解できている。勉強会でも話し合い、防止の取り組みをしている。	虐待に関する講習会に参加し、内容をホームの会議で報告して職員間で共有している。また、日常の介護の場面で、虐待につながるような対応をしていないか、その都度職員間で話し合っている。	高齢者虐待防止関連法等、虐待防止について職員全員の理解がさらに深まるよう研修の実施を望みたい。勉強会を計画中有るので、実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	津南町の介護保険、福祉担当、社会福祉協議会とは生活保護世帯の利用者に関するやり取りで連携を取っている。研修会へも参加している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約内容、生活案内等十分な説明をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の介護、生活の中で何でも話せる雰囲気作りをしており、利用者の思いを察し、気兼ねなく不満や意見を述べられるようにしている。	苦情受付窓口を明示し、利用者、家族に説明している。運営推進会議には利用者、家族の代表にも参加してもらい、意見を聞いている。普段から、利用者、家族が意見を出しやすい雰囲気作りに努め、出された意見、要望は運営に活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に業務会議を開き、意見交換をして提案等は業務に反映している。常にコミュニケーションを図るように心掛けている。	職員間で何でも言える雰囲気があり、毎月1回の業務会議で意見や提案を出し合っている。また、職員が自由に書ける「何でもノート」があり、そこに書かれた意見、提案についても話し合い、運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回の業務会議の中で、意見・要望を聴き、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修会、講習会等へ積極的に参加しているが、各種資格への挑戦は高度になるほど難しい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会への参加や、研修受け入れを行っている。救急法や初期消火訓練等、他のグループホームと合同での講習会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談で本人の思い、不安等良く聞き、事前見学を勧めて、ホーム内を良く見て頂き信頼して頂くよう心掛けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームに見学に来られた時から家族の身になり、何でも話しが出来るよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの対応が困難と考えられる場合は、他の事業所や地域包括支援センターに相談している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、郷土料理や行事の習わし等教えて頂く場面を持ち、一緒に暮らして共に過ごし支え合う関係を築いている。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には利用者の生活の様子、ケアの方法について、手紙や電話できめ細かくお知らせし、家族の意見や要望を取り入れた支援をしている。	毎月家族に手紙や写真で利用者の生活の様子を伝えたり、随時、通院結果などを電話で報告するなど、家族との連絡を密にして情報の共有を図り、家族と共に利用者を支えていく関係が築かれるよう努めている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会を歓迎し、以前利用されていた食堂や住んでおられた地域の訪問の支援等をして、馴染みの関係を大切にしている。	出身地の老人会への参加支援や友人の面会を歓迎するなど、これまでの関係が継続されるよう努めている。また、馴染みの食堂へ行きたい、住んでいた家が見たいなどの要望も大切に、一緒に出かけるなど対応している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や得意分野、好み等を理解して、利用者同士の関係がうまくいくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が重度化により長期入院で契約が終了して他の施設に移動しても、職員は面会をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、利用者との会話の中から把握するよう努めている。分からない所は家族、関係者からの聞き取りによって把握するように努めている。	入居時、本人、家族から思いや希望を詳しく聞くようにしている。また、日々の関わりの中で、昔の話を聞いたり、言葉や行動から思いや希望、意向の把握に努め、その人らしい暮らしの支援に活かしている。	アセスメント表に本人、家族の意向の記載がないものも見受けられた。本人、家族から聞いたことや気づきなどを積極的に記録として残し、さらなる支援へとつなげることを期待したい。
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時には家族に生活歴の重要性を説明し、理解を得て関係者からの聞き取りをしている。利用者からも日々の話の中から聞き取り、把握に努めている。	職員はこれまでの暮らしの把握の大切さを理解し、情報収集している。入居時に家族から聞いたり、普段の利用者との会話など、さまざまな機会を利用して把握に努め、本人への理解を深めて支援に活かしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活習慣や心理的状況、全体像の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、家族の要望、担当ケアマネの意見を聞いて計画を作成するよう心掛けている。	利用者、家族の意向、他の職員の意見も参考にしながら、担当職員がアセスメントを行い、計画作成担当者が担当職員と共に介護計画を作成している。見直しは、3ヶ月ごとに会議を開いて行っている。	家族から意見や要望がなかなか出ない場合もあり、介護計画に家族の意見が反映しにくいことがある。家族も含めた関係者がチームで利用者により良いケアを提供するために、多くの関係者の意見を介護計画に反映できるよう今後も継続的な働きかけを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子やケアの実践・結果は個別に記録し、職員間では連絡帳を活用し、実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院に家族等が行けない時はホームで支援し、受診結果を家族に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者についての相談事、施設の防災、保育園、小中学校との繋がり等、それぞれ協働し合うようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は家族の都合で代行する事が多いが、家族が付き添い受診をする場合、ホームでの様子、体調をお話しし、手紙で医師に連絡する手段を取っている。	本人、家族の希望を大切にし、ほとんどの利用者が以前からのかかりつけ医に引き続き受診している。受診の付き添いを職員が行う場合は、結果を家族にきちんと伝え、家族が付き添う場合は、医師に手紙などで利用者の体調等を伝えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は介護職員と連携を取りながら、利用者の健康管理を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、常に病院関係者と情報交換をし相談しながら早期退院できるよう、またはケアの仕方等もアドバイスを頂く等、病院関係者と協力しながら行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点で重度化した場合の話し合いをしており、容態に変化があった時は、早めに家族、病院関係者と話し合いをしている。	入居時に本人、家族に、ホームとして出来ることを伝え、重度化した場合の対応について説明している。利用者の状態に変化があった場合は、主治医、家族と相談しながら、今後について話し合うようにしている。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は訓練を受けており、対応する事が出来る。状況においては看護職員から指示をもらいながら対応する事も出来る。	毎年、消防署が行なう救急法の講習会に数名の職員が参加し、他の職員にも内容を伝達している。看護師からも応急手当について指導を受けている。	毎年、数名の職員が講習会に参加しているが、より多くの職員が継続的に研修に参加できる体制づくりへの検討を期待したい。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間数回の避難訓練を行い、災害時の対応を身に付け、その度に意見交換をしている。また、地域から協力を得られる様に連携体制が出来ている。	年に数回、消防署員に来てもらい、避難訓練や通報訓練、消火訓練などを行っている。また、消防団員に利用者の状況を説明したり、ホームの間取りや非常口を見てもらうなどして有事に備えている。	夜間を想定した訓練が最近は行なわれていないので、職員の少ない夜間の状況を想定した訓練も継続的に実施することが望まれる。また、有事に近隣住民からの協力も得られるよう、運営推進会議等を通じたさらなる働きかけも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライドを損ねるような言葉の掛け方をしないよう心掛けており、笑顔で穏やかに接している。また、個人情報は利用者、来訪者の目に触れないように管理している。	職員の態度は穏やかで、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮されている。行動を促す際の言葉かけも、本人だけに聞こえるよう近づいたり、声の大きさに気を配るなどしている。	入浴チェック表や個人ファイルが乗せられたワゴンが利用者の目に付く場所に置かれていた。個人情報の管理について再度検討を望みたい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との日頃の会話、表情、仕草の中から汲み取るよう努めている。本人の意向や希望を受け入れ自己決定できるように支援し対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のペースを大切に、時間を決めたり急がず事のないよう心掛け対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者は自由な服装をしており、支援の必要な人にはそっとさり気なく行うようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は利用者と一緒に掛けている。食事準備、片付けも利用者と職員で行い一人ひとりの好みや力を活かしながらしている。職員も同じテーブルを囲み一緒に食事を楽しんでいる。	食材の買い物、下ごしらえなどの準備、後片付けなど、利用者の出来ることは職員と一緒に楽しみながら行っている。食事も、穏やかな雰囲気の中で利用者と職員と一緒に話をしながら楽しく摂っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院からの通達や体重を考慮し、食事量など一人ひとり様子を見ながら食事をして頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの方がご自分で歯磨きが行えるので、食後やっていただいている。また週2回、入れ歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁や歩行障害のある方でも出来る限りトイレで排泄が出来るように誘導している。失敗に関しては恥ずかしい思いをしなくて済むように、周りにも気を配りながら行う。夜間には居室でのポータブルトイレの使用も支援している。	自分でトイレに行ける利用者が多い。支援が必要な方には、トイレ誘導やポータブルトイレの活用など、個々に合わせて可能な限り自立した排泄を支援している。排便チェックは行っているが、排尿パターンのチェックは行っていない。	できるだけ紙パンツ等の使用を減らし、気持ち良く排泄ができるよう、今後は、排尿チェックも行って、個々の排泄パターンやタイミングに応じた支援へのさらなる取り組みを期待したい。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く使用した食事や水分を多く摂るようにしている。散歩や体操、家事手伝い等で体を動かすようにし、自然排便に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日は清掃のため入浴出来ないが、以外は毎日入浴出来る。利用者の希望で気の合う者同士と一緒に入る等、利用者の希望や状態により入浴支援している。	ホームのある地域が温泉地であり、ホームの風呂にも温泉が引かれている。日曜日以外は毎日入浴することができ、基本的には午後を入浴時間とし、本人の希望に応じて支援している。希望により仲の良い人同士で入るなど、入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠が出来るように日中の活動の支援と、不眠時には温かい飲み物を飲む等、個々に対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書はファイルし、直ぐに取り出して確認出来るようにしてあり、薬に変更があった時には申し送りノートに記録し、全員が把握できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事、出来そうな事を把握し、手伝って頂いたり教えてもらったりしている。職員はその度に感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、あるいは実家訪問等、外に出る機会を個別または他の利用者と一緒に連れて出掛けられるよう支援している。	食材等の買い物や散歩へ定期的に出かけ、花見などの外出行事やドライブも実施している。また、個人的な買い物、馴染みの美容院や食堂へ行く、友人宅を訪ねるなど、一人ひとりの要望に沿った外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上で小遣いを所持されている方への買い物支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を一緒に書いたり、電話や手紙等本人の希望以外にも職員から勧めたりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには日めくりカレンダーや利用者の作品を飾ったり、台所用品、座布団等家庭的な物を多く使用している。	共用空間には季節感のある装飾が施されており、それらは、過度になりすぎないよう配慮している。利用者が作ったのれんも落ち着いた雰囲気を作っている。不快な音や臭いもなく、明るさや温度、湿度も適切に保たれるよう気を配っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	洗濯場の一角や廊下、内玄関等に椅子を置き、利用者同士で好きな場所でお茶を飲んだり、おしゃべりをして過ごす事が出来るようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族と話し合い、馴染みの家具等を持ち込み、出来るだけ自宅に近い居住環境作りに配慮し、カレンダーや家族の写真を飾り、落ち着く環境作りに努めている。	家族の協力を得て、タンスなど馴染みの家具や写真などを持ち込んでもらっており、仏壇を置いている利用者もいる。また、ホームで撮った写真を飾るなどして、それぞれの利用者の居室づくりを支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は利用者の歩かれる必要個所に手すりを取り付け、床はバリアフリーでエレベーターを設置し、安全確保に努めている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			